

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

令和6年7月1日（月）～令和6年7月7日（日）〔令和6年第27週〕の感染症発生状況

第27週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1）手足口病 2）新型コロナウイルス感染症 3）ヘルパンギーナでした。

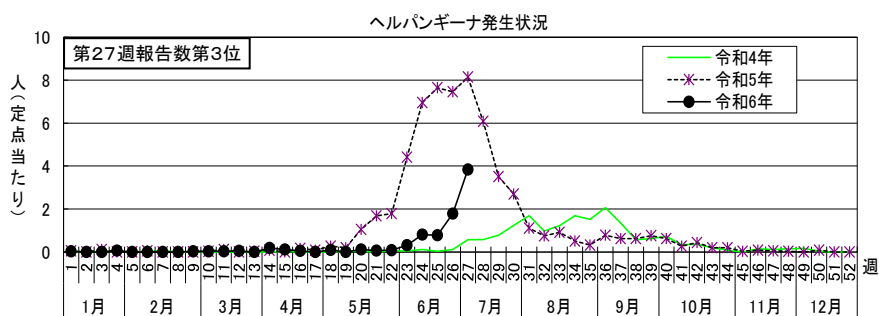
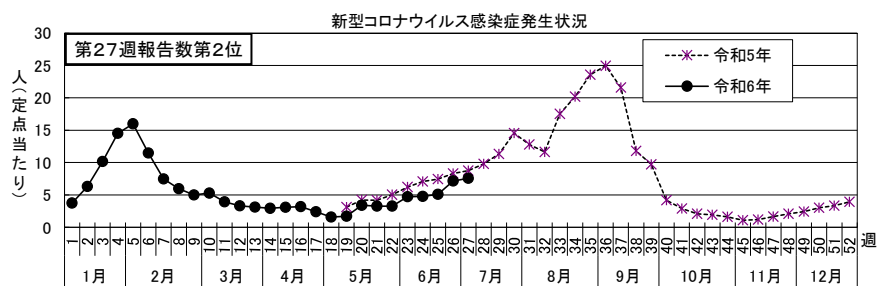
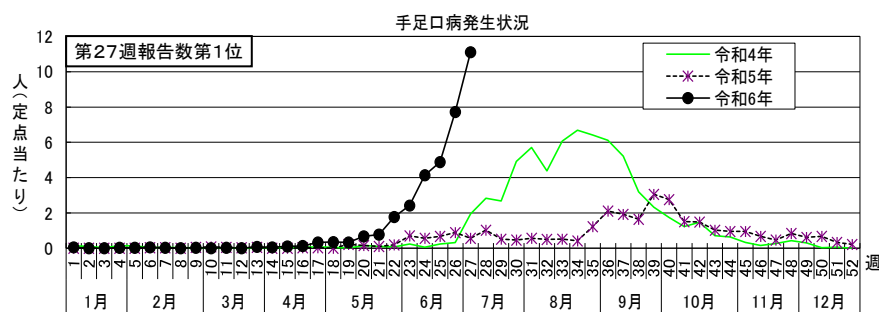
手足口病の定点当たり患者報告数は11.11人と前週（7.72人）から増加し、例年より高いレベルで推移しています。

新型コロナウイルス感染症の定点当たり患者報告数は7.57人と前週（7.17人）から横ばいでした。

ヘルパンギーナの定点当たり患者報告数は3.84人と前週（1.78人）から増加し、例年並みのレベルで推移しています。



STOP



百日咳の報告数が増加しています！

川崎市における令和6年の百日咳の報告数は5月以降急増し、第27週（7月1日～7月7日）までに計22件となり、令和5年の年間報告数を上回りました。全国的にも令和6年は百日咳の報告が多くみられています。

百日咳は生後6か月以下の乳児では重症化しやすく、死亡する危険性もあるため、百日咳にり患した親や兄弟等からの感染を防ぐことが重要です。百日咳菌の排出は咳の症状が現れてから約3週間持続します。早期に適切な抗菌薬を使用することで排菌期間を短縮し、乳児への感染を防ぎましょう。

百日咳とは？

【病原体】

百日咳菌

【感染経路】

咳やくしゃみ等による飛沫感染、接触感染

【潜伏期間】

通常5～10日間（最大3週間程度）

【主な症状】

- ①カタル期：5～10日間の潜伏期間の後、かぜ様症状で始まり、次第に咳の回数が増えて程度も激しくなる。
- ②痙咳期：短く激しい咳が連続して起こり、息を吸う時に笛のような音が出る特有の咳発作がみられる。
- ③回復期：激しい咳が消失した後も、発作性の咳が続く。

【予防方法】

百日咳含有ワクチンの接種（5種混合ワクチン等）

